

活動報告

なつ げいじゅつさい ひろしま夏の芸術祭 びじゅつかん にほんがたいけんきょうしつ 美術館セミナー 日本画体験教室



日本画の作品をよく見てください。
今日は、この絵に塗られた絵の具、岩絵具を
作ります。



孔雀(くじゃく)石(いし)という鉱石から緑色の絵の
具を作ります。
まずは、石を砕きましょう！



細かく砕く作業は、けっこう大変です！



上澄みと沈んでいる顔料
を分けて、濃い緑と薄い
緑を作ってみよう！



しばらく乾燥すると…
これにニカワを混ぜると
完成。



水谷愛子の「たけのこ」をよく見て色紙に模写
しよう。



自分の作った岩絵具で、色を付けよう。

今回は、ひろしま夏の芸術祭の美術館セミナーとして、初の日本画ワークショップ「日本画体験教室」を開催しました。

講師は、日本画家の横山由美子先生(日本美術院院友・石正美術館学芸員)をお迎えしました。

まず、日本画で主に使われる絵の具「岩絵具」を作ることから始めます。今回は、孔雀石という天然の鉱石を使って「緑青」という絵の具を作ります。

まず、鉄乳鉢に石を入れて、力を入れて細かく砕きます。細かく砕いた石を乳鉢に移し、さらに細かくすりつぶします。次に、少し水を加えながら擦り、細かくなったところで絵皿に移し、さらに少量の水を加えます。しばらく時間をおき、濁った上澄みと底に残ったものに分けると薄い緑と濃い緑の絵具ができます。これを乾燥させるとようやく岩絵具の完成です。

次に、水谷愛子「たけのこ」を鑑賞し、自分の気に入った部分を色紙に模写します。

そしていよいよ、自分で作った岩絵具を使って色を塗っていきます。岩絵具を塗る時には、動物の皮や骨から煮出したものを練り合わせて使います。とても手間がかかる作業ですが、自然界にある鉱石を使って作った岩絵具は、とても繊細な色あいです。

水彩絵具などとはちがう独特の色合いで、すてきな「たけのこ」が完成しました。

[* 教育普及のページに戻る *](#)

Copyright©Kure Municipal Museum of Art all rights reserved.